

「若旅★授業」京都学園大学（2017. 6. 1）実施報告

近畿運輸局第7回目の「若旅★授業」を、平成29年6月1日（木）に京都学園大学バイオ環境学部1回生132名（バイオサイエンス学科、バイオ環境デザイン学科、食農学科）を対象に、一般財団法人京都ユースホステル協会事業部長の佐藤隆芳さんを講師としてお招きし、『地域資源探索町歩きツアーと旅の魅力について』をテーマに実施しました。

佐藤さんは、10代後半にグラフィックデザインを学び、デザイン事務所に勤務し広告デザインの世界で活躍していました。旅行に出ることがほとんどなかった佐藤さんですが、ふとしたきっかけから、友人と出かけた初の海外旅行で、旅の素晴らしさに目覚められ、その後約2年間国内外を放浪する旅に出られました。そういった体験をもとに旅の素晴らしさについてご講義いただきました。



現在、佐藤さんはユースホステルの事業部長として、外国の人々の交流や旅行事業などを運営する傍ら、「京都の住民がガイドする京都のミニツアー『まいまい京都』」の活動にも取り組んでいることにも触れられました。『まいまい京都』は5年前からスタート、「まいまい」とは「うろうろする」という京ことばであり、京都の住民が地元への愛を込めて自慢する、个性的かつバラエティーに富んだ100人以上のガイドが町を案内していることを紹介していただきました。5年前は31コースであったものが、2016年春には219コースという規模に育ったこと、また、このツアーには、共通の趣味や好きなものを通じて参加される方が多いこともあり、今までに参加者同士による結婚カップルも5組生まれたとのこともありました。

佐藤さん自身、ワーキングホリデーに行くまでは、メジャーな旅雑誌などに紹介されるようなものが旅行であるといったイメージを持っており、海外に行かなくても日本で生きていけばよいというタイプの人間であったと話されました。海外に一人で行ったという達成感から、広い世界に興味を持ち始め、いろいろなものを見たいという思いが湧き上がり、世界放浪の旅に出ることになったと話された。そういった中で、『旅』は「何を見る」ではなく、「どんな人に会えるか」ということに気づいたこと、また、日本人の「言わなくてもわかるやろう」という感覚は多くの外国人にはなく、しっかりと意志を伝えることが大切であることも語られました。



ユースホステルの設立の経緯や歴史にも触れられ「単なる『宿泊施設』の運営では無く『宿泊機能のある教育施設』の運営を行うこと」「教育的な効果がある”旅”の活動をサポートすること」であるとの理念も説明されました。また、客船、お城や元刑務所、さらにはジャンボジェット機を活用したユニークなユースホステルが世界には多くあることを豊富な写真で紹介いただきました。

佐藤さんの実体験に基づく熱い思いは、しっかりと生徒の皆さんに伝わったようです。最後に、佐藤さんから『学びある“旅”に出て下さい』という素晴らしいメッセージをいただきました。終了後も、質問や名刺交換などのため、多くの学生さんが集まり盛り上がりしました。

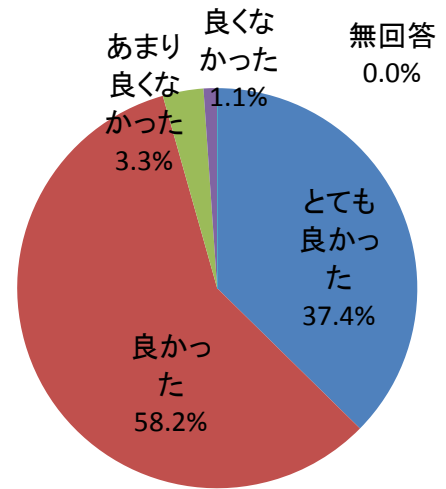
若旅★授業(京都学園大学 2017.06.01)アンケート結果 概要

○アンケート

【授業を受けた生徒さんのアンケート結果】(n=96)

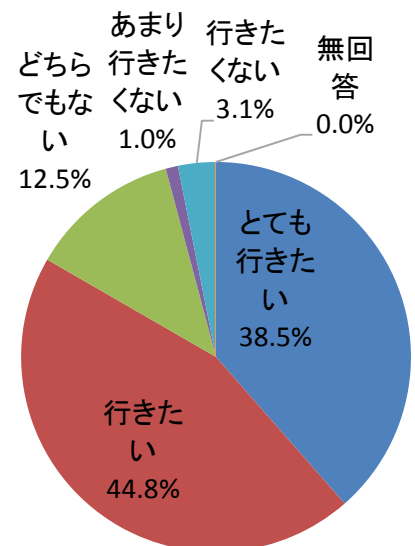
(1) 今回の講演はいかがでしたか

「とても良かった」37.4%が、「良かった」58.2%がと答え、合わせて95.6%の生徒さんが高評価の結果でした。



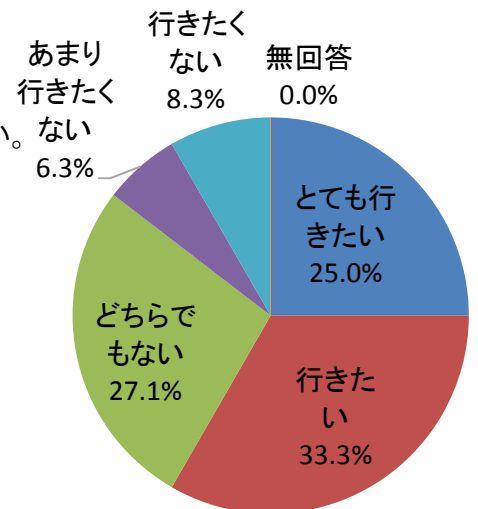
(2) 講演を聞いた後の、国内旅行に対する意欲を教えてください。

今回の「若旅★授業」を受けて、38.5%の生徒さんが「とても行きたい」、44.8%の生徒さんが「行きたい」と答えてくれました。
全体の83.3%の学生さんが意欲を持っていることがわかりました。



(3) 講演を聞いた後の、海外旅行に対する意欲を教えてください。

今回の「若旅★授業」を受けて、25.0%の生徒が「とても行きたい」、33.3%の生徒さんが「行きたい」と答えてくれました。
全体の58.3%の学生さんが意欲を持っていることがわかりました。



(4) 講演で特に印象的だったことを教えてください。

- 人によって「旅」のイメージは違うということです。辞書に書かれた説明はもつともではありますが、いつもと違う道へ入ったり、日常的にあまり行かない場所に行くことも「旅」なのではと？感じられるようになりました。
- 旅は何を見るではなく、どんな人に会えるかという言葉。
- マイマイ京都に関して、その内容に驚いた。
- 外国ではいろんな想定外の事態が起こる。
- 旅先での人との出会いというのが、人をつないで新しい関係を築きあげる一つの方法であるのだと改めて感じた。
- ホリデーワーキングは聞いていたが、ぜひ学生のうちに外国に行って新しい体験をしてみたい。
- 最初に海外へなんか行かなくてもいいという考えが、私と同じだったので、すごく説得力のあるお話を聞けました。
- ユースホステルの世界分布数や1日に利用するお客さんの多さ。
- 「世界へ行った時、日本のことを知らなかった」という話。
- 人それぞれ旅の概念が違うということに気づいた。
- 海外の人とのコミュニケーションの難しさ。

(5) 講演でこんなことをもっと聞きたかった、こんなことをしてみたかったということがあれば教えてください。

- 旅行の一つのプランにユースホステル巡りをやってみたい。
- 旅で使う平均のお金の金額？
- できれば、一人で旅に出てみたいと思った。
- 何故ユースホステルの価格があんなに安いのか聞いてみたい。
- 旅行会社の良し悪し。
- 先生の選ぶベストユースホステルはどこか、国内、国外別で。
- 海外の色々な場所、知らない場所へ行ってみたい。
- 自分も人のために何かをやってみたい。
- できれば、一人で旅に出てみたいと思った。

(6) どのような取組を行ったら、若者が旅行に出ると思いますか。

- 若者向けのお得な一人用周遊キップの充実（若者は年配者と比べ、給料や貯蓄がかなり少ないので、若者向けのキップを用意すれば旅に出やすくなると思うから。）
- まずは「旅」の良さ（楽しさ）を伝える。次に、相手の興味にあわせて場所を考える。（誰も自分にメリットがあったり、楽しいことはしてみたいと感じるもの。まずはそこを伝える。次に相手がそのとき（過去）に好きなこと、興味のあるもので地方、外国で考えてみる。最後は、相手の気持ちをつかめるかだけだと思います。）
- その地域の人しか知らない名所とかを巡る（ガイドブックに無い所に行けるというレア感があるから）
- 地道にこんなことをやっているということを伝えていくしかないと思う。（結局、興味を持ってもらえなければどうしようも無いから。）
- 休みを取りやすい環境、安くする。（若い人はお金が無く、時間もない人が多いのではと思うので、ゆとりを持った生活を促進すればいいのではと思う。）
- 旅を楽しめるものだと知ってもらえるような機会を作る。（若者はあまり旅と言っても想像しにくいのかなと思ったから。）
- 旅の特集を若者が見るような所で行う。（まず、知る機会がないから。）
- 学校や会社に旅行の情報をもっと流す。（一人では行かないが、友人たちと多人数なら行くという人が情報を得た時、学校や会社ですぐに友人などを誘えるから。）